

令和7年度（2025年度）

東海市幼児教育研究協議会事業報告

1. 小学校と保育園・幼稚園・認定こども園との交流

日時	R7.12.18（木）9:25～10:30 R8.1.16（金）10:25～11:10
会場	緑陽小学校（一番畑保育園と緑陽小学校）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 生活科で作ったおもちゃで遊んでもらい、年下の子に何かしてあげようという気持ちからがんばろうとする。 小学校の校舎や授業、一年生の様子を見て、学校のことを知り、興味や期待を持つ。 小学生と触れ合うことで、親しみや安心感をもつ 体育館と保育園の遊戯室との違いを感じ、感じたことを伝え合ったり、就学へ期待を持ったりする。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 一年生が作った思おもちゃで遊ぶ中で、触れ合いや言葉のやり取りを楽しむ。 教室やトイレを実際に見たり使用することで、興味や関心、安心感を持つ。 小学生と集団遊びをする中で、触れ合うことを喜び、親しみを感じたり安心感を持ったりする。 遊戯室と比較し、感じたことや思ったことを言葉にして保育者や友達と伝えあう。
感想	<ul style="list-style-type: none"> 1年生が作ったおもちゃに対し、「すごいね」「どうやって作ったんだろう」と憧れたり、「小学校になったらやれるのかな」という言葉が聞かれ、小学校への期待につながった。 校舎内に入ると辺りを見回したり、教室に掲示してあるものを見たり、興味を持つ姿があった。トイレの便座の大きさや、トイレトーパーホルダーの位置など、実際に使用することで、理解や安心につながっていた。 緊張する子もいたが、保育園で関わった子がいたり、知っている集団遊びだったりしたため、楽しむ姿があった。 <p>保育園での異年齢交流の大切さや、知っている一年生との交流を行う機会を作ることの大切さを感じた。</p>

日時	R8.1.21（水）9:40～10:15
会場	加木屋小学校（加木屋保育園と加木屋小学校）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 小学校にあるものを知り、小学生になることに期待をもつ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 校庭内を見学し、固定遊具の種類や大きさ、校庭の広さを知る。 6年生の体育の授業を見学する。
感想	<ul style="list-style-type: none"> 実際に見に行ったことで、小学校の校庭と保育園の園庭の違いや同じところ（遊具の種類、大きさ、個数、色、校庭の広さ、芝生の有無など）を見つけて、期待を持ったり、安心したりする姿があり、小学校のイメージを持つきっかけとなったため、よかった。 <p>校内の様子も気になる姿があったため、見学する機会を設けていく。</p>

2. 研究紀要

- ・「子ども同士で思いを伝え合いながら遊びを進めていくために」
—保育者の役割を考える—
一番畑保育園
- ・「子どもたち一人一人が思いを出しながら友達と一緒に遊びを進めるために」
—エピソードを通して保育者の関わりを考える—
加木屋南保育園
- ・「異年齢交流を通しての気づきを考える」
—気持ちや接し方は変わるのか—
雨尾幼稚園

3. 保育参観

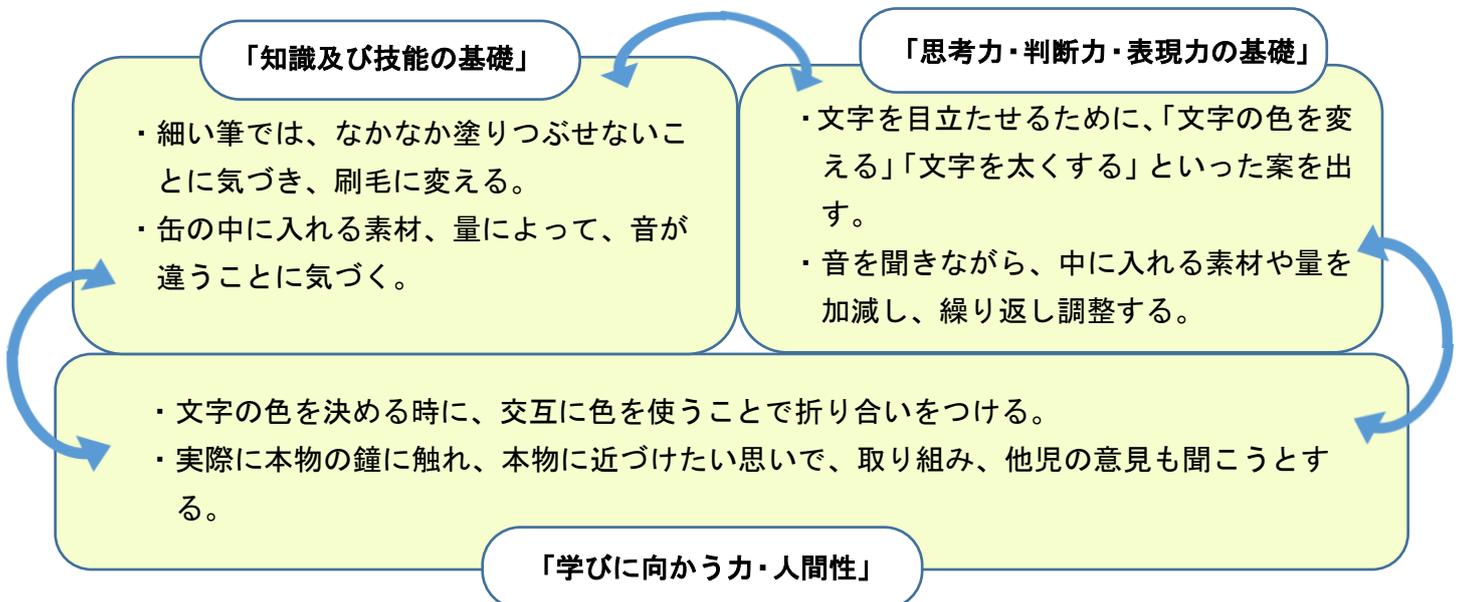
<目的>

- ・幼児期の「遊びを通した学び」の意義や効果を認識する。
- ・子どもの育ちを、三つの資質・能力に結びつけて整理し、具体的な子どもの学びを共有する。

<具体的な子どもの姿>

- ・焼きそばの看板を作るグループでは、文字の色を決める時にお互いが譲らず、交互に色を使うことで納得。細い筆で塗っていたが、なかなか塗りつぶせないことに気づき、刷毛に変えた。文字と同じ色で塗りつぶしたことにより、文字が見えなくなる。「文字の色を変える」「文字を太くする」という案が出た。今後グループ内の話し合いとなる。
- ・神社でお参りをするとき鳴らす鐘を作るチームは、実際に神社で鐘に触れ、本物に近づきたいとの思いで取り組んでいる。缶の中に入れる素材や数で音が違うことに気づき、音を聞きながらいくつか鐘を作る。振り返りの場で、順に音を聞いてもらい、どの音がいいか、手を挙げてもらう。

◆子どもの育ちを3つの資質・能力の視点から捉えると・・・



----- 今後幼保小でできること -----

- ・振り返りをしながら自分の意見を言う経験から、小学校でも意欲的に言葉で意見を伝えられる姿につながっていくと思われる。
- ・保育園、幼稚園でいかに失敗する経験ができるかが大切。失敗した後に、他の方法を考えることを大切にしている。
- ・子どもの試行錯誤を導いていくことが小学校への学習につながっていく。学校の学びで枠ができてく中でも、自分を表現、発揮していけるようになる。

<参加者の意見・感想>

- 「協同遊び」について、参観の場面からどんなことを思ったか。
 - ・お互いに意見が譲れない場面を見た。今の段階では、保育者が子どもたちの意見を整理しながら、話し合いを進めることが必要だが、解決することを目的とするのではなく、意見がぶつかった時にどうしていくといいか考える経験が、協同性につながっていくと思った。
 - ・自分の思いを言葉にして相手に伝える、葛藤しながらも思いをすり合わせていくという経験を積み重ねていくことが大切だと感じた。
 - ・お互いで協力する場面、自分の困り感を出す場面等、さまざまにそれぞれを認めようとする姿が見られたのが、素晴らしいと思った。
 - ・自分で試したり、失敗したり、次はこうしようと、取り組んだ経験が少しずつ力や知識になっており、自信を持って生活することができると感じた。
- 幼児期に育みたい資質・能力をどのようにとらえたか。また、就学後どのような力につながっていくと感じたか。
 - ・遊びの中で、自分で気づき、感じたことから身につけていくもの。身につけた力やなんとなく感覚的にわかっていたことが就学後、自分で考え行動する力や学びの理解が深まることにつながる。
 - ・一つの活動の中に複数の資質や能力があり、それらは、子どもが夢中になって遊ぶ中で育まれていくのだと感じた。また、試行錯誤していくことが就学後の興味を持って取り組む姿や自分の力を発揮する姿、自分たちで解決しようとする力へと繋がっていくと感じた。
 - ・知識として得た経験が興味を深め学びに向かう力にもつながってくる。今回の参観で、三つの資質・能力が互いに行き来しながら育まれていくと再確認できた。
 - ・やりたい遊びに夢中になって遊ぶ経験や、じっくり試しながら遊ぶという経験が、子どもの育ちに繋がっていることを改めて確認できた。遊びの中で友達や保育者との信頼関係を丁寧に築いていくことで、就学後に困難に出会ったとしても友達や先生に助けをもとめるなどしながら、乗り越えていけるのではないかと感じた。

○ 「幼児の自発的な活動としての遊び」について思ったこと。

- ・ 自発的な活動を促すためには、先ず動機づけが大切だと感じた。
- ・ 振り返りや実際に経験したことを大切にすることで、遊びが発展していき、学びが深まっていくと感じた。
- ・ 遊びの中で、大人からすると当たり前のことが、子どもにとっては発見で、興味を持ち、いろいろ試したりすることが、また新しい発見にもつながり“もっとやりたい”“こうしたらどうなるんだろう”と主体的に遊んでいくのだと思う。保育者が子どもの発見に気づき、興味をとらえ、子どもの興味にあわせた環境を設定することが、自発的な活動を支えることにつながると思う。
- ・ 子どもが、自らしたい遊びを見つけ、遊びを深めていくこと、そして、友達と関わりながら様々な経験をすることが、人間性や様々な力を身につけていくために重要だと感じた。またそのために、保育者は必要な環境を設定する必要があると感じた。